

退職者団体・会	1.入ってない	2.入っている	3.役員
ボランティア関係団体・組織	1.入ってない	2.入っている	3.役員
その他→具体的な団体・組織名 ( )	1.入ってない	2.入っている	3.役員

質問 11 このような地域における団体・会・組織での活動や役割をこれからも積極的に続けようとお考えですか。該当する番号に○印をつけて下さい。

1. これからも積極的に続けようと思う      2. どちらかという続けようと思う  
3. どちらかという続けたくない            4. 続けたくない

質問 12 高齢者の生活にとって、地域の様々な団体や会に参加・加入することは大切なことだと思いますか。該当するお気持ちに○印をつけてください。

1. 大切だと思う                                    2. どちらかという大切だと思う  
3. どちらかという大切だと思わない      4. 大切だと思わない

質問 13 趣味やスポーツ、レクリエーションなど、習い事やサークル・団体活動として、どのような活動をしていますか。やっているものすべてをお書きください。

例) ゴルフ 囲碁 旅行の会
----------------

質問 14 あなたはこのような趣味やスポーツ、レクリエーションに関する活動をこれからも積極的に続けようとお考えですか。該当する番号に○印をつけて下さい。

1. これからも積極的に続けようと思う      2. どちらかという続けようと思う  
3. どちらかという続けたくない            4. 続けたくない





⑤簡単な掃除をする	1.まったく自信がない	2.あまり自信がない
	3.まあ自信がある	4.大変自信がある
⑥簡単な買い物をする	1.まったく自信がない	2.あまり自信がない
	3.まあ自信がある	4.大変自信がある

質問 22 以下の質問に関して、当てはまる場合には「1、はい」、当てはまらない場合には「2、いいえ」に○印をつけてください。(実際にしていなくても、一人でやろうと思えばできるなら「はい」を選んでください。

①バスや電車を使って、一人で外出できますか	1.はい	2.いいえ
②日用品の買い物ができますか	1.はい	2.いいえ
③自分で食事の用意ができますか	1.はい	2.いいえ
④請求書の支払いができますか	1.はい	2.いいえ
⑤銀行預金、郵便貯金の出し入れができますか	1.はい	2.いいえ
⑥年金などの書類がかけますか	1.はい	2.いいえ
⑦新聞を読んでいますか	1.はい	2.いいえ
⑧本や雑誌を読んでいますか	1.はい	2.いいえ
⑨健康についての記事や番組に関心がありますか	1.はい	2.いいえ
⑩友だちの家を訪ねることがありますか	1.はい	2.いいえ
⑪家族や友だちの相談にのることがありますか	1.はい	2.いいえ
⑫病人を見舞うことができますか	1.はい	2.いいえ
⑬若い人に自分から話しかけることがありますか	1.はい	2.いいえ

質問 23 あなたの現在の健康や生活についてうかがいます。以下の質問に関して、当てはまる場合には「1、はい」、当てはまらない場合には「2、いいえ」に○印をつけてください。

①健康だと感じていますか	1. はい 2. いいえ
②毎日気分よくすごせますか	1. はい 2. いいえ
③体調が優れないことが多いですか	1. はい 2. いいえ
④周りの人とうまくいっていますか	1. はい 2. いいえ
⑤友人との付き合いに満足していますか	1. はい 2. いいえ
⑥家族との付き合いに満足していますか	1. はい 2. いいえ
⑦ある程度のお金に余裕がありますか	1. はい 2. いいえ
⑧小遣いに満足していますか	1. はい 2. いいえ
⑨将来に不安を感じていますか	1. はい 2. いいえ
⑩寂しいと思うことがありますか	1. はい 2. いいえ
⑪自分が無気力だと感じる場所がありますか	1. はい 2. いいえ
⑫将来に夢や希望はありますか	1. はい 2. いいえ
⑬趣味はお持ちですか	1. はい 2. いいえ
⑭生きがいはお持ちですか	1. はい 2. いいえ

質問 24 とくに精神的な健康についてうかがいます。以下の質問に関して、当てはまる場合には「1. はい」、当てはまらない場合には「2. いいえ」に○印をつけてください。

①自分の生活に満足していますか	1. はい 2. いいえ
②これまでやってきたことや、興味あることの多くを最近やめてしまいましたか	1. はい 2. いいえ
③自分の人生はむなしいものと感じますか	1. はい 2. いいえ
④退屈と覚えることが、よくありますか	1. はい 2. いいえ
⑤普段は、気分の良いほうですか	1. はい 2. いいえ
⑥自分に何か悪いことが起るかもしれないという不安がありますか	1. はい 2. いいえ
⑦あなたはいつも幸せと感じていますか	1. はい 2. いいえ
⑧自分が無力だと覚えることがありますか	1. はい 2. いいえ
⑨外に出て新しいものごとをするより、家の中にいるほうが好きですか	1. はい 2. いいえ
⑩他の人に比べ、記憶力が落ちたと感じますか	1. はい 2. いいえ
⑪いま生きることは、素晴らしいことと思えますか	1. はい 2. いいえ
⑫自分の現在の状況は、まったく価値のないものと感じますか	1. はい 2. いいえ
⑬自分は活力が満ち溢れていると感じますか	1. はい 2. いいえ
⑭いまの自分の状況は、希望のないものと感じますか	1. はい 2. いいえ
⑮ほかの人はあなたより恵まれた生活をしていると思えますか	1. はい 2. いいえ

質問 25 あなたの日常の移動能力は以下のどの項目にあてはまりますか。

(もっとも近いものに○印をつけてください)

1. 身体に障害はなく、日常生活は自分で何でもでき、自由に外出できる。
2. 何らかの身体的障害などあるが、日常生活はほぼ自分で何でもできる。  
(一人で交通機関などを利用して外出する。一人で隣近所なら外出する)
3. 屋内での生活はおおむね自分でできるが、外出には介助を必要とする。
4. 屋内での生活に何らかの介助を必要とし、日中はベッドの上の生活が多いが  
座位を保てる。
5. 一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えなどで介助を必要とする。

補装具や車椅子を使用した状態でお答えください。

質問 26 入院・通院状況についてうかがいます。該当する方に○印をつけ、具体的な数字をお書きください。

過去1年間に入院したことがありますか。      1. ある      2. ない

この1ヵ月間の通院日数は      約  日

ご協力ありがとうございました！

## II. 分担研究報告



## 役割の創造が高齢者の健康度及び QOL の向上に及ぼす影響

分担研究者 芳賀 博 東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 教授

### 研究要旨

分担研究の2年目である今年度は、地域に介入し、住民が主体的に高齢者に対する役割を創造できるように支援すること。また、創造された役割を高齢者に設定した結果、地域の高齢者の健康度やQOLが向上するかどうか検証することを目的として位置づけた。

地域高齢者に対する役割の創造や設定には、行政や専門家の側面的・継続的支援が必要であることが本研究のプロセスから理解ができた。また、そうした支援により創造された地域住民による主体的な役割遂行（学習活動）は高齢者のADLやQOLの向上に貢献できることが確認できた。さらに、住民参加型の役割設定を行なった地区は、非設定地区と比べてADLやQOLが有意に向上しており、役割づくりによる地域全体への波及効果も確認できた。

### A. 目的

65歳以上の人口が2割を突破することを目前とした現在、認知症高齢者や寝たきり等への対策に加えて、高齢者の活力やproductivity（生産性）の促進が急務の課題となっている。高齢者の社会参加や社会活動が、生命予後に好影響をもたらすことや、生活機能の維持および主観的QOLの向上と密接に関連することは良く知られている<sup>1)</sup>が、高齢者を対象とした社会活動や社会参加の積極的な創造プログラムの開発までには至っていない。

高齢者の社会活動や社会参加の減少は、退職に代表される役割（期待）の減少に起因するものであり、社会活動促進のためには、地域で高齢者に担ってもらえる、あるいは担ってもらいたい役割の種類を数多く準備することが必要である。しかし高齢者の役割づくりとその効果に関する実証的研究はほとんどない。

本研究は地域高齢者の役割メニューの発掘と開発を行い、これらを地域へ応用実践することにより高齢者の社会活動の促進にどの程度影響するのかを検証し、同時に生活機能や健康度、QOLの向上に果たす役割についても明らかにすることを目的としている。

本研究の2年目である今年度は、前年の高齢者の役割実態や希望とする役割の内容調査を踏まえ、①自治会・町内会といった小地域に介入し、住民が主体的に高齢者に対する役割を創造できるように効果的な支援をすること。また、②創造された役割を高齢者に設定した結果、地域の高齢者の健康度やQOLが向上するかどうか検証することを目的として位置づけた。

### B. 研究方法

#### (1) 対象地区の設定

役割の創造・設定をする対象地区として3つの自治会（大和、南栄、種川）を設定した。自治会といった小地域を対象地区とした理由としては、①前年度の調査結果の中で、高齢者の中に今以上の役割を希望する数が少なかったことから、希望する役割の上位となったものを単純に町全体に設定するだけでは、多くの効果を望めないこと、②役割の創造や設定には住民の主体性やエンパワーメントが必要であり、そのためには小地域の特性や人材、人間関係を活用した役割創造と設定が必要であることを考えたからである。

地区を選定する際には、町保健師に対して、地区の特性や人材、人間関係等をヒアリング

し、地区への接近性や、役割創造・設定の可能性の面を考慮し決定した。(表1)

## (2) 役割創造・設定に向けた介入

各自治会に対して地区の担当保健師から自治会長を通じ介入の了承を得た後、平成17年4月以降に自治会役員や民生委員、婦人会役員、老人会役員、小学校の校長・教頭、役場サポーター(役場職員)、保健福祉課職員等を構成員とする座談会を数回繰り返した。

座談会では主にブレイクスルー型<sup>2)</sup>のグループワークや地域づくり型<sup>3)</sup>のファシリテート法を援用し、質的なデータの整理にはKJ法等を使用した。

座談会全体のファシリテートは本研究の協力者(函館短期大学食物栄養学科教授齊藤恭平)が担当し、町の保健福祉課職員はグループワークにおける各グループの司会や記録役として機能した。

座談会では昨年度の調査の結果を還元し、また同時に自治会の特性や高齢化の現状などを伝え、地区の高齢者に適した役割をテーマに話し合いを持った。得られたデータは、保健福祉課職員で優先順位や実現可能性の観点から整理して、地区に設定する役割案として還元した。

各自治会に還元された役割案は、同様な形式の座談会により、役割案から役割設定のための具体的方策について話し合いを持った。このテーマに関しては座談会だけでなく自治会の役員会など、メンバーを変え、具体的な役割設定のエンパワーメントにまで繋がるように、トライアングレーションを繰り返した(図1)。

## (3) 役割設定による効果測定

役割設定された地区に対して、前年度と同様の時期に、昨年度の調査の項目から社会参加数(町内会・自治会、高齢者団体、地域の文化団体、体育・スポーツ系の団体等への参加・加入数)と役割との関連が多く見られたIADL<sup>4)</sup>、QOL<sup>5)</sup>、GDS<sup>6)</sup>に関して同様な質問内容を調査し、比較した。ただし、IADLに関しては老研式活動能力指標の手段的自立の部分を中心に得点化した。また、GDSに関しては通常うつ傾向を示す回答を1点、そうではない方を0点として得点化するが、本調査の集計ではうつの傾向を示す回答を0点、そうではない方を1点として合計し、これにより精神的健康度を表すことに

した。

対象者は前年と同様、同地区の在宅高齢者(要介護認定者・施設入所者は除く)とし、地区の保健推進員の協力のうえに、配票留め置き方式(自記式・一部回収時の面接)にて実施した。また、対照地区として、役割設定に関係しない近隣の自治会(花石、住吉、白石、豊田、稲穂の5自治会: 65歳以上の調査対象者計146名)を選び、同様の調査を実施した。

## C. 結果

### (1) 対象地区への介入のプロセス

役割創造・設定に向けた各自治会への介入プロセスは資料(今金町における在宅高齢者への役割設定に至るまでのプロセス)に示したとおりである。これは、各地区担当保健師による介入の内容を記録したものである。介入のタイミングと内容、それによる自治会(住民)の動きや専門職の気づきが時系列的に示されている。

自治会(住民)による主体的な役割創造と設定には専門家の側面的な支援と時間がかかることが、ここから読みとれる。特に地域の行事的なスケジュールや産業(対象地区では農業)の忙しくなるタイミングもあり、介入者側の意図通りにそれぞれのスケジュールが進まないこともあった。

### (2) 創造された役割

大和自治会では学習的(教える・学ぶ)役割が高齢者に対して設定された。「寺子屋やま」という事業で自治会役員が実行委員となり主体的な運営がされた。

南栄自治会は自治会・婦人会を中心にして「花いっぱい運動」が企画され、高齢者に対する環境整備に関する役割が創造された。しかし、北海道の季節的な制約もあり、今年度は準備の段階にとどまった。

種川自治会は「ボランティア・ナビゲーション・マップ(仮称)」を作成し、ボランティアの客体と主体(高齢者)結びつけることを企画した。現在、自治会や小学校が中心となり作成のための組織を作るまでに至っている。

結果として高齢者に対する具体的な役割の設定が、年度中に可能となったのは大和自治会の1地区だけであり。他の自治会は次年度へ向けての準備や自治会関係者のエンパワーメントを試みる段階にとどまった。

### (3) 学習役割の遂行と健康度・QOL

大和自治会では学習的な役割設定として「寺子屋やまと」事業が平成17年11月28日から平成18年3月27日まで9回にわたって実施された(資料参照)。参加申込者は42名(内65歳以上は30名)である。地区の元気高齢者の約1/4の参加を得る事業となった。

この役割設定期間中に前年度と同じような健康度・QOL等に関する調査を実施した。対象は大和自治会の高齢者(65歳以上、入院・施設入所者・長期不在者を除く)118名であり、回収された内の有効表は96名分(81.4%)であった。

参加者、非参加者における役割設定前後のIADL、QOL、GDSの各平均得点を比べたところ、非参加者では1年前に比べ、IADL、QOL、GDSともに、ほとんど変化がないか、減少しているのに対して、参加者の方はいずれの得点も増加の傾向を示し、特にIADLとQOLでは有意な変化が見られた。(表2)

また、役割設定前後のIADL、QOL、GDSの変化量の平均に関して、参加者と非参加者を比べると、IADLとQOLで有意なちがいを示した。しかし参加者と非参加者ではもともと年齢や社会参加数にもちがいが見られ、これらのバイアスが考慮されるべきである。(表3)

### (4) 役割設定地区と非設定地区の健康度・QOLの比較

前述したようなバイアスを回避するために、役割設定のために介入した大和地区と、この地区と年齢構成や社会参加数が似ている近隣地区(対照地区)との比較を試みた。これによると、役割非設定地区の方はいずれも得点減少をしているのに対し役割設定地区はADLとQOLが増加し、有意な差がみられた(表4)。

### D. 考察

各地区への介入プロセスの中で、役割設定を目的として数回の座談会や関係者による協議の機会を多く持ったが、これだけでは具体的な役割設定までの達成は困難であった。最も必要であったのは座談会前後の地区担当保健師の関わりであり、「念押し」や「声かけ」などの保健師から地域住民への日本的な根回しであったように考える。特に座談会後の専

門職(保健師)による地区(役員・関係者)への積極的な働きかけがなければ役割設定は困難であった。結果として、介入した3地区のうち1地区で役割設定がされ、他2地区でも役割設定に向けての具体的な動きが起きたことは価値があると考えられる。

また、具体的な役割設定として学習的な役割設定ができた大和自治会において、役割遂行者のIADLやQOLの向上が見られた意義は大きい。もともと年齢や社会参加数のちがいなどのバイアスがあったとはいえ、「教える」「学ぶ」といった学習的役割設定が高齢者個々の「手段的自立」の向上といったIADLの面や、「健康満足感」「人間関係」「精神的健康・活力」の向上といったQOLの面でも影響があった。特に、いわゆる運動を中心とした介護予防的な活動だけでなく、学習的な役割設定が影響したという点で、今後の高齢者の介護予防施策に応用できるであろう。

また、地域への役割設定はその遂行者の個々の健康度だけでなく、ひいては役割設定した地域全体の健康度やQOLにも波及効果を示した意義もまた大きい。地域高齢者の健康度やQOLを向上させるためには、地域の高齢者が多く参加できる役割設定の取り組みやイベントが有効であり、そのためにも、今回のような小地域(町内会自治会単位)を単位として、その地域の間人関係や特性を活かし、エンパワーメントされた地域住民が主体となった取り組みが多く実行されるべきであり、それらの取り組みを支援するために行政の専門職は機能することが必要である。

### D. 結論

地域高齢者に対する役割の創造や設定には、行政や専門家の側面的・継続的支援が必要であることが本研究のプロセスから理解ができた。

また、そうした支援により創造された地域住民による主体的な役割遂行(学習活動)は高齢者のIADLやQOLの向上に貢献できることが確認できた。さらに、住民参加型の役割設定を行なった地区は、非設定地区と比べてIADLやQOLが有意に向上しており、役割づくりによる地域への波及効果も確認できた。

とくに役割設定によりIADLの向上が期待できるということは、高齢者に対する介護

予防策として、筋力トレーニングなどの運動系のメニューだけでなく、学習や趣味活動、ボランティアなどを含めた総合的な役割メニューの設定が有効であることを示唆したものであると考えられる。

#### F. 健康危機情報

特になし

#### G. 研究発表

1) 齊藤恭平、佐藤美由紀、藤田喜枝子、伊藤弓月、芳賀 博、在宅高齢者の役割実態と健康度・QOLの関連、第64回日本公衆衛生学会（札幌）、2005

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

#### 文献

- 1) Berkman,L.F. & Breslow,L (森本兼曩監訳)：生活習慣と健康。HBJ出版局、1989. pp. 99-137.
- 2) 日比野省三、岩永俊博、吉田浩二：保健活動のブレイクスルー。医学書院、1999. 30-71.
- 3) 岩永俊博：地域づくり型保健活動のすすめ。医学書院、1995. 79-108
- 4) 古谷野亘、他：地域老人における活動能力の測定—老研式活動能力指標の開発。日本公衆衛生雑誌、34 (3)、109-114、1987
- 5) 大田壽城、芳賀博、長田久雄、田中喜代次、前田清、他、地域高齢者のためのQOL質問表の開発と評価、日本公衆衛生雑誌、48 (4)、258-267、2001
- 6) Niino,N.,Imaizumi,T. & Kawakami,N. : A Japanese translation of the Geriatric Depression Scale. Clinical Gerontologist,.10(3) : 85-87,1991

#### 研究協力者

齊藤恭平（函館短期大学食物栄養学科教授）  
伊藤弓月、本田春彦（東北文化学園大学助手）  
島貫秀樹（東北大学大学院医科学研究科障害科学専攻博士課程）

表1 役割創造・設定介入地区とその選定理由

自治会	住民数 高齢化率	地区の特性と選定理由
大和	624名 25.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世帯数は町内自治会で最も多い。</li> <li>・退職者の一戸建て住まいが多く、比較的高収入、高学歴。</li> <li>・子供会活動やふれあい事業が盛んである。ふれあい事業の中では踊りやカラオケ教室などの参加が多い。</li> <li>・個人的な趣味や学習活動を楽しむ住民が多く、このような活動を役割として設定することが期待できる。</li> <li>・使いやすい自治会館が中央にあり、学習活動に使用できる。</li> </ul>
南栄	382名 25.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の中心（商業地区に近い）</li> <li>・様々な町のイベントの先駆的な役割してきた地区。</li> <li>・町営住宅多い。公務員が多い。</li> <li>・婦人会活動や子供会活動が比較的盛んである。</li> <li>・婦人会を中心に高齢者の役割設定に協力体制を得られることが期待できる。</li> <li>・中央に自治会館があり活用できる。</li> </ul>
種川	317名 38.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地から少しはずれており、農業従事者が多い。</li> <li>・高齢化率が非常に高い。</li> <li>・自治会や婦人会による各教室やイベントは集まりがよい。</li> <li>・地域の中心に特別養護老人ホームがありこの施設を中心としたボランティア活動が多い。</li> <li>・人々が集まれる施設として、中央に農業改善センターがある。</li> <li>・小学校の校長が伝統的に地域に対して協力的である。世代間交流事業なども盛んである。高齢者の役割設定にこのような関係が活用できる。</li> </ul>

表2 役割（学習活動）設定前後の健康度・QOL関係の得点

		設定前	設定後	T検定
参加者 (n=30)	IADL	5.23 (1.19)	5.79 (0.49)	**
	QOL	9.72 (3.50)	11.10 (2.35)	**
	GDS	10.72 (3.87)	11.00 (3.41)	ns
非参加者 (n=66)	IADL	5.49 (0.86)	5.44 (0.69)	ns
	QOL	9.36 (2.97)	8.95 (2.80)	ns
	GDS	9.72 (3.61)	9.32 (3.61)	ns

図1 各自治体への介入のプロセス

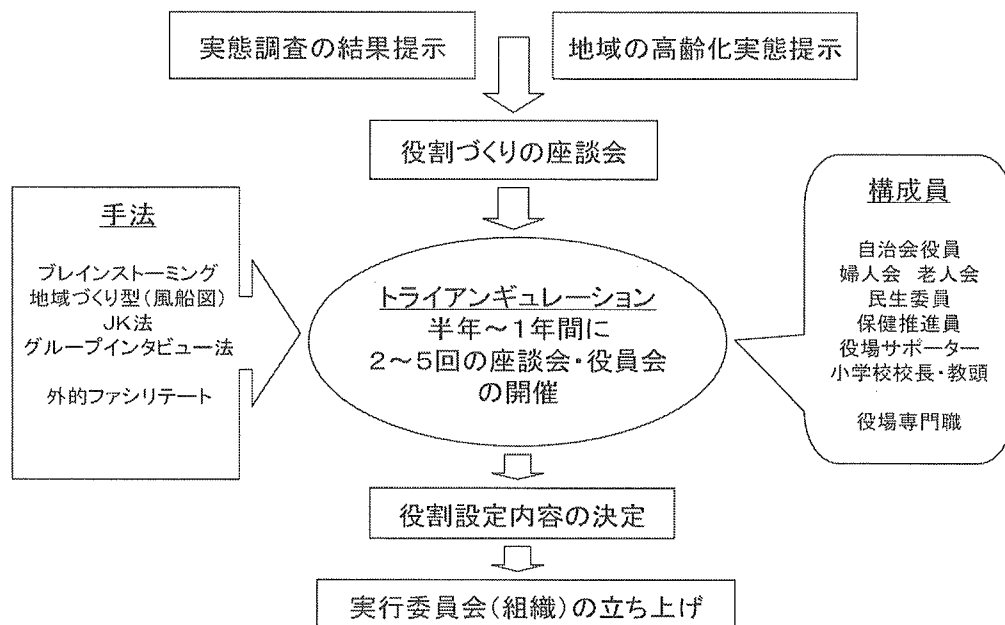


表3 参加者・非参加者の健康度・QOL関連指標の得点比較

	参加者 (n=30)	非参加者 (n=66)	T検定 welch 法
年 齢	71.28(5.39)	73.88(6.25)	*
社会参加数	2.83(2.27)	1.31(1.75)	**
(前年との差)			
IADL	0.56 (1.01)	-0.05 (0.99)	**
QOL	1.38 (2.99)	-0.41 (2.35)	**
GDS	0.28 (2.92)	-0.40 (3.50)	ns

( ) 標本標準偏差

表4 役割設定地区・非設定地区の健康度・QOL関連指標の得点比較

	設定地区 (n=96)	非設定地区 (n=117)	T検定 welch 法
年 齢	73.01(6.09)	74.50(5.48)	ns
社会参加数	1.76(2.03)	1.82(2.10)	ns
(前年との差)			
IADL	0.15 (1.03)	-0.16 (1.03)	*
QOL	0.11 (2.69)	-0.59 (2.61)	*
GDS	-0.29 (3.46)	-0.27 (2.79)	ns

( ) 標本標準偏差

今金町における在宅高齢者への役割設定に至るまでのプロセス(種川自治会)

月日	自治会に対する働きかけ・取り組み	自治会(役員・住民)の反応	質的評価(専門家の気づき)	量的評価(参加数)
17. 4. 上旬	自治会長へ役割設定に関する座談会開催に関するコンタクトをとる	会長が町議会議員でもあり、比較的興味を示す	会長は協力的である	
17. 5. 上旬	チラシを作成し自治会長を通じ配布を依頼する	チラシの配布や声かけにより参加者を集める		チラシ全戸配布
17. 5. 21	第1回目座談会 ①受付名簿、産れ簿などを作成。 ②座談会のグループワークの司会と書記を兼ねて実施。終了後担当保健師から、次回はいづ頃がいいか、町内会で集まる機会はないかを打診。 1回目の座談会の内容をまとめ、次回座談会のお断いを会長にする。	①机の配置・片づけなどは協力的であった 次回の座談会を6月29日に決定	グループワークの課題については比較的にスムーズに達成できている	出席者32名(保健推進員、自治会役員、老人会、小学校校長・教頭他)
17. 6. 中旬	前回の座談会の内容が掲載されてチラシを作成	チラシの配布や声かけにより参加者を集める		チラシ全戸配布
17. 6. 29	第2回座談会	秋祭り終了後の役員会で提案し、承認が必要であり、役員会に出席するよう要請される。	役員会が自治会の決定機関である。	出席者28(保健推進員、自治会役員、老人会、小学校校長・教頭他)
17. 8. 上旬	連合自治会長に座談会の意見から見えあひマップの作成の取組みを提案する。			
17. 10. 下旬	連合自治会長に役員会の日程の確認をする。			
17. 11. 15	種川連合自治会役員会にて今回取組みの経緯および「シニア世代が主役の元気なまちづくり座談会」の内容について報告し、マップ作成の提案をする。	平成17年の自治会事業でマップ作成は計画しており、行政と協力して作成することの了解をする。 ・単位自治会長の数々からは多忙のため協力できないとの声がある。 ・作成方法の詳細については、行政と連合自治会長で検討することとなる。	・受身的であり、総論賛成、各論反対のような印象を受ける。 ・マップの作成過程での住民参加が作成後の動員に影響することを感ずる。	出席者22名(単位自治会長、各団体の長、小学校長、教頭)
17. 12. 上旬 (衆所時)	連合自治会長に今後の進め方について相談する。	取材する記者、および編集委員は会長が依頼するとの回答。	・会長の意見に従うが、その後連絡がない。 →役員改選時期でもあるので、意志伝達が滞っているのではないかと不安になる。 ・会長1人で決定するのは、負担なのではないか。→実行委員会などの組織で意思決定していく仕組みが必要。 ・このままでは行政主導のマップ作成が目的の事業になってしまうことを危惧する。→住民と行政、住民間でのマップ作成の目的の共有化および企画、作成過程での住民の参画の必要性を感じる。	
18. 1. 上旬	連合自治会長にマップ作成についての座談会の開催を依頼する。	自治会長が役員会で開催の依頼をするよう提案する。		
18. 1. 21	連合自治会役員会にて、マップ作成についての座談会開催の依頼をする。	1週間後に開催される自治会のレクリエーション事業にて地域住民に対して座談会の開催の趣旨説明および開催時間帯等の意見聴取の提案を職員にする。	・親身に対応策を考えてくれている感じがあ る。 ・種川自治会の事業への参加動機→自治会と保健師の距離が近くなくなった感じがある。	出席者20名





今金町における在宅高齢者への役割設定に至るまでのプロセス(大和自治会)

月日	自治会に対する働きかけ・取り組み	自治会(役員・住民)の反応	質的評価(専門家の気づき)	量的評価(参加数他)
17. 4. 4	自治会に対する働きかけ・取り組み 会長へ座談会開催の相談のため電話連絡。開催日や会費の都合、周知について相談。	5月上旬に町内会事業「ふれあいの集い」を実施予定。その事業と一緒にやってみようかと好意的。役員会で日時決定したら連絡するとの返答。	会長が協力的な姿勢でいてくれることに気づく。関係を良好に保ちたいと思う。	
17. 4. 14	福祉課長名で地区懇談会の開催依頼文を作成。担当保険師から一枚の手紙をつけて発送。先日相談に乗ってくれたお礼と、ふれあいの集いを利用させてもらいたい旨を改めてお願いの内容。	役員会実施し、5月22日にふれあいの集いを開催に決定。ふれあいの集いの前に懇談会を実施する形式で、とのこと。今後の詳しい進め方は福祉さんにしてほしいとのこと。(町内会事務局)		
17. 5. 9	役員さんへ、ふれあいの集いの周知の際に一緒にちらしを配布してほしいことや、会場準備の時間、タイムスケジュールなどについて了解を得るため職場へ訪問。	会場配置については図をくれば、大和町で準備しておくと言ってくれる。ちらしの原稿を13日までもってきてくれれば、周知してよとの返答もらう。	役員さんに今回のことをきちんと伝えることで座談会の開催がスムーズになると思う。	
17. 5. 13	担当保険師、ちらし作成し、係内で了解得て、福祉さんへ持参する。	大和町でもふれあいの集いのちらしを作成。懇談会のタイムスケジュールをふれあいの集いのちらしにも記載。保険師作成のちらしに両面印刷として作成。	ふれあいの集いのちらしにも、懇談会について掲載してくれたことで、ふれあいの集いとして協力してくれる位置づけにあることに気づく。	全戸配布分253枚
17. 5. 15		大和町内のみ全戸配布(回数日の利用)	枚数を用意しておけば、町内会長のほうで配分してくれる。	
17. 5. 22	第1回目座談会 ①受付名簿、要れ帯などを作成。 ②座談会のグループワークの司会と書記を係で実施。終了後担当保険師から、次回はいつ頃がいいか、町内会で集まる機会はないかを打診。	①初の座談は大和町内会でも実施してくれた。 ②次の座談会については、今年秋まつりの神社当番でいそがしいが、町内会全体の事業はないかな・・と、あなたたちにもまかせようとの返事もらう。	座談会は出欠の50台後半から70代の若い世代が参加。後期高齢者はこのあとふれあいの集いに参加していた。町内会役員は全員出席。若い世代に参加してもらえれば理解してもらえたと感じる。	40名
	係、青藤敬雄と日程調整し、2回目は8月28日に決定。			
17. 8. 9	大和町内での地域ケア懇談会を実施。その中で町内会の高齢者の情報交換と、担当保険師が担当している接近困難事例について町内会支援の可能性について検討してもらおう。次回座談会の日程を案内。	町内会でも心配しているケースであり、安否確認も大変なケースである。しかし、本人自身が拒否的であり、心を開いてくれないと町内会も何もできないとの返答。しかし、なんとかがなくてはならぬというケースだとは思っているとの返答。	町内の高齢者対策に対しては関心が高いが「町内としてどうサポートするか」という点では、イメージできない様子。個々の問題と違ってしまおう。しかし、なんとかがしなくてはならぬとは思っている様子であることから、今後に展開させてけると感じる。	15名
	竹内会長に手紙を持ち、訪問。8月22日になってしまったが協力的なお礼をいただいた。①に対しては、今回はもう少し具体的な形にしていってほしい方向です。と伝える。竹内会長の日頃感じている町内会活動についてや、町の福祉行政に対する疑問などの話しになる。	ちらしは回数日の時に、全戸配布で、2回目的のワーキは自分が都合悪く出られないというが、副会長もいるし、と係へ承諾。①何か前回が物足りなかった。今回は、もっと具体的な話をしてくれるのかい？希望はいろいろ出たけど、それをどうしていくのかなど。	前回の座談会では物足りなさを感じていると気づく。今回はもう少し具体的にやっていくと情報を提供しておくこととする。前回のケア懇談会についても話題になる。町内会長としても、むずかしく感じていることをきく。会費はそういう人がでないよう最初から地域の集いなどにみんな出席してくれることで、かがわり強いがでると思っている。そのためふれあいの集いなど一生懸命なのだ気づく。	

17.8.19	回覧作成し、全戸配布する。(回覧日利用)裏面に前回話し合いに出た意見をまとめて掲載。					
17.8.28	第2回定例会 来賓、受付名簿など作成。担当保健師は会長と同じグループで司会をする。①ワークショップ終了後、担当保健師会長へそのうち具体的な開催に向けて相談の連絡をいれることを約束。	会場準備では先に町内会役員がきてくれていた。竹内会長も御会をついけて出席してくれていた。「今日は来まらないうちもいれないうちも、葬式と結婚式が町内でぶつかってしまっただけ」と教えてくれる。グループワークでは会長もよく発言していた。①終了後、会長も今後が楽しみな様子あり。	寺子屋で行うことで盛り上がり、実行委員をたてて行うことが、懇談会で承認された感じでした。人数が少なかつたが、グループワークは2Gに別れて実施。みなよく発言していたため、手ごたえあり。終了の雰囲気も寺子屋実施の前ほど終わり、次のステップが参加者全員に伝わったと気づく。	13名。(組形式やゲーム大会とぶつかる。)		
17.9.13	斎藤教授と打ち合わせ。具体的な寺子屋プログラム原案を作成。今後実行委員が補足・変更を加えながらプログラム案を埋めていく形に作成。 ①竹内会長に実行委員メンバーを決めてくれるよう依頼。	①実行委員のメンバーを決めてほしい旨連絡するも、だいたい考えているとの返事。自分は実行委員には入らないが、手伝いはするとのこと。	会報は実行委員にあたりをつけていた状況であることから、寺子屋については、積極的に考えてくれている。			
17.10.7	竹内会長へ担当保健師から電話。実行委員のメンバーと第1回実行委員会の開催日を相談。	10月11日に第1回を実施決定し、連絡は会長がしておいてくれるとのこと。				
17.10.11	第1回、実行委員会開催。補足・追加用の資料を用意。竹内会長から先に挨拶をもらう。16:30~19:40の間に研究の目的や今後の寺子屋やまとに期待されていることや、実行委員の役割の思いなどを聞きながら、楽しくめられた。	いきいきと全員が、自分の考えを語ってくれた。竹内会長の挨拶でいよいよ実行委員会の開催という雰囲気をつくった。	実行委員会の雰囲気を見て、竹内会長のここらうちを知った仲の良いメンバーであることを感じる。みな、いきいきと自分の意見を語っていた。	実行委員6名 + 竹内会長		
17.11.15	2回目の実行委員会にちらしの披露。①開校式までにファイルを作成し、いままでの流れや目的を書いたファイルを作成しちらし全戸配布後に会長にわたし、配布してもらう。クリスマスリースとそぼろちについて、相談の要点をまとめて、それにそって、実施について検討。検討については、担当が、検討項目をあげ、皆さんで確認しあってもらい、実行委員に渡す。はなしているうちに、一体感あり。疑問などを受けて、帰る形となる。役割分担、回覧作成し、いれる。	①町内会の誰に聞かれても説明できるように研究の目的などを記した資料がほしいと実行委員から提案される。クリスマスリース、そぼろちなどの検討にも積極的に意見交換されていた。	まとまりがあり、検討についてもスムーズである。このような点は？と聞くだけで、積極的に話し合いがなされ、決定する。保健師が心配な点をいとうと、保健師が安心できるような検討結果にいたる。保健師自信の気持ちも口にすることで、一体感が生まれるよう気がする。	実行委員6名 + 竹内会長		
17.11.18	回覧作成し、いれる。					
17.11.19	町広報に日程をいれる。 課長へ挨拶を依頼。(事務作業などは担当係で分担。ちらしを大きなポスターにして、開会には、斎藤教授からメッセージをもらう手配。説明の資料作成、寺子屋入學許可証・スタンプ・出席簿の作成。) 寺子屋セオの手配をし、担当係で個別に50個作成。寺子屋セオのふるしきは唐草模様は実行委員の意見、会長に役割分担票をアップス。		いよいよ寺子屋開始。スタッフも唐草模様のふるしきの反応が楽しみ。			
17.11.28	第1回 寺子屋やまとの開催。 (係内で事前に打ち合わせし、タイムスケジュールを作成。早めの集合にて実行委員にて確認) 担当係などアトラクションのダンスにも飛び入り参加。開会式終了後、第3回目実行委員会にて反省と次回検討をシェアリポート。	広報車でもまわる。開会式では校長の竹内会長に参加者から大きな拍手あり。実行委員は何人か、アトラクションのダンスにも参加。	広報車で寺子屋やまとの広報を実行委員長が実施しており、驚いた。(その後毎回同様) 竹内会長の挨拶の時の反応が非常に良い反応あり。大和町民にとって、町内会での実施が、身近であることに気づく。	35名参加。(町内会で亡くなった方がいるが、まずまずの参加者)		
* 大和町において気づいたこと... 第2回目以降のワークショップから実行委員まで主に電話連絡であり、実施に苦勞は少なかつた。実施に苦勞は少なかつたのかと思いましたが、スムーズだったように思います。あわせて、地域ケア懇談会などもあり、別の視点からのかかわりもあつたこともよかつたのかと思ひました。						

今金町における在宅高齢者への役割設定に至るまでのプロセス(南栄町内会)

月日	自治会に対する働きかけ・取り組み 自治会長へ役割設定に関する座談会開催に関する電話をする	自治会(役員・住民)の反応 役員との相談事項とする	質的評価(専門家の気づき) 会長は協力的である	量的評価(参加数他)
17.4. 中旬	チラシを作成し自治会長を通し配布を依頼する	チラシの配布や声かけにより参加者を集める		チラシ全戸配布
17.4. 29	第1回目座談会 ①受付名簿、書れ帯などを作成。 ②座談会のグループワークの司会と書記を係で実施。 終了後担当保健師から、次回はいつ頃がいいか、町内会で集まる機会はないかを打診。	地域の高齢化等の現状には興味を持ち、グループワークには積極的に参加している	グループワークの課題については比較的にスムーズに達成できている	出席者25名(保健推進員、自治会役員、老人会、婦人会他)
17.5. 下旬	1回目の座談会の内容をまとめ、次回座談会のお断りを会長にする。	次回の座談会を5月29日に決定		
17.6. 中旬	前回の座談会の内容が掲載されてチラシを作成	チラシの配布や声かけにより参加者を集める		
17.6. 28	第2回座談会	役割設定の具体化には難色を示している。	婦人会等は前向きに考えているが、自治会役員の負担が増えるイメージもあり、具体的な役割設定には難色を示している。その中でも花壇整備や待ちの環境整備を中心に住民が集うことに関しては関心が高いようである。	チラシ全戸配布 出席者28(婦人会、自治会役員、老人会他)
17.7. 29			座談会を受けて音聲動画を交えて検討。「お花できれいきれい運動(仮称)」と題し、町内会へ企画を提案してみる。	
17.8. 29	自治会長へ企画の提案及び役員会での説明の必要性を伝える。	座談会は欠席であったが、話の中心は聞いている。賛成も反対もあったが、やってみなければ話は進まない。 まずは役員会にかけた方がよい。その際福祉課職員も同席してもらった方がよい。 話し合いの中では運動会後にお疲れさん会をやった時に、「こんな風に乗まる機会があったらいいね」という声が出た。	町内会の規模が大きいため、意見も多種多様であり、会長は様々な意見に積極的に耳を傾けている。その中では役員会が決定権をもち、役員会での話し合いの必要性を強く感じている。	
17.9. 27	予定されていた役員会の日になっても連絡が来ないため、会長に電話し動向を確認する。	葬儀や祭りが重なり役員会を行えず、会長が役員へ直接話しをする。「人が集まらないのではないか」など心配し了解が得られず、理由として各行事等で仕事を分担するが、最終的には役員会の負担となること。 再度、役員会を開いて意見交換を行う。しかしその際は町内会だけで行いたいとの希望があるため、役員の負担にならないような取り組みをしていきたいことを伝える文書を作成し渡す。	今までの経緯から、新規事業となるとまた役員の負担になる恐れが強く、受け入れがたい様子。 役員が負担とならないようにするために、参加する町民自身が負担を感じないような事業展開が必要であると考え、そのための町内会全体で取り組める内容とすることや、手がかけられないものにする必要がある。	